

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	32人	算数	32人	理科	32人
第5学年	国語	32人	算数	32人	理科	32人

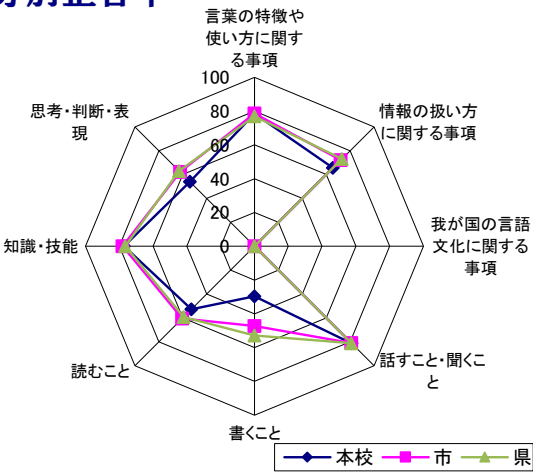
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	78.5	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	65.6	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	81.3	81.0	81.1
	書くこと	29.7	47.2	52.8
観点	読むこと	52.7	60.5	59.3
	知識・技能	77.2	78.0	76.5
	思考・判断・表現	54.1	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

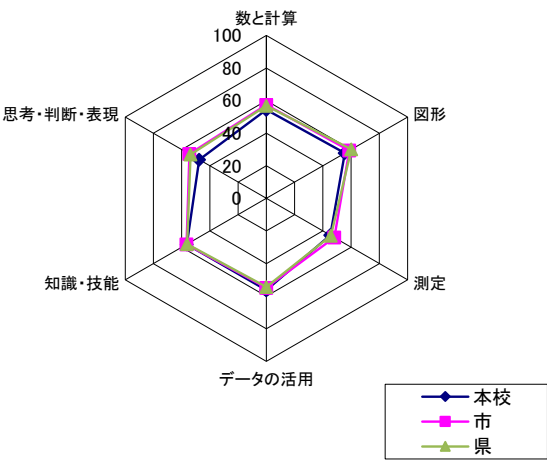
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	本校の平均正答率は、市の平均より0.1ポイント低い。 ○「農業」「育てた」「返事」等の漢字を読むことができるかどうかを答える問題では、約9割の正答率であり、市の平均を上回っている。 ●ローマ字で表記されたものを正しく読むことができるかどうかを答える問題では、65.6%の正答率であり、市の平均を11.3ポイント下回っている。	・引き続き漢字ドリルやAIドリルを活用し、該当学年の漢字学習に加え、既習の漢字学習を平行して取り組み、定着を図っていく。 ・漢字の定着を図るために、定期的に10問テストなどの小テストを実施し、根気強く指導していく。 ・一人一台端末を活用し、ローマ字及びタイピングの学習を積み重ねていく。
情報の扱い方にに関する事項	本校の平均正答率は、市の平均より6.6ポイント低い。 ●国語辞典の使い方を理解し、載っている順番として正しいものを選ぶ問題の正答率は65.6%であり、市の平均を6.6ポイント下回っており、課題が見られる。	・語彙の拡充を図るために、重点指導語句については、国語辞典や漢字辞典を活用し、語句の理解及び定着が図れるようにしていく。 ・教材文に出てくる言葉を活用して、類義語や対義語などの語彙を増やしていけるようにする。
話すこと・聞くこと	本校の平均正答率は、市の平均より0.3ポイント高い。 ○話し手が話した内容を説明した文として適切なものを選ぶ問題の正答率は100%であった。 ●「ドッジボールがよい」という意見について、自分の考えを理由を挙げながらまとめる問題の正答率は65.6%であり、市の平均を15.2ポイント下回っており、課題が見られる。	・国語の話し合い単元の学習を生かして、他教科や学級活動でも役割を分担しながら、自分たちで話し合い活動を充実させる経験を積ませていく。 ・各教科の学習で自分の意見をもつ際には、その意見を支える理由や根拠を明確にさせ、他者と意見を交流しながら、自分の言葉で表現できるようにする。
書くこと	本校の平均正答率は、市の平均より17.5ポイント低い。 ●指定された字数、長さで文章を書いたり、2段落構成の文章を書いたりできる児童が約3割で、大きな課題が見られる。 ●自分の考えを明確にして文章に書いたり、自分の考えを根拠をもとに明確にして文章を書くことにも課題が見られる。	・100文字日記やスタンダードダイアリーを活用した日記指導など、日頃から書く習慣をつけ、書くことに対する抵抗感を減らすことができるように努めていく。 ・段落構成を意識できるようなワークシートを作成し、書き始めはマス空けるなどの基礎的な事項の定着が図れるようにしていく。
読むこと	本校の平均正答率は、市の平均より7.8ポイント低い。 ○場面の様子について、叙述を基に捉えることができるかどうかを答える問題の正答率は96.9%で、市の平均を11.8ポイント上回っている。 ●登場人物の気持ちの変化について、適したものを選ぶ問題の正答率は28.1%で、市の平均を28.8ポイント下回っており、大きな課題が見られる。	・場面の様子を捉える際に、本文の叙述を基にししながら、登場人物の心情の変化や情景について、児童から様々な意見を出し合わせながら展開する授業を行うことで、場面同士のつながりや心情の変化が捉えられようように指導する。 ・教材文と同じ作者の作品を平行して読書する時間を設けることで、作者特有の表現や言い回しに親しめるようにする。

宇都宮市立西小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	54.4	57.4	56.9
	図形	55.5	58.7	60.1
	測定	45.3	48.1	45.7
	データの活用	56.3	54.9	54.3
観点	知識・技能	56.4	56.6	56.2
	思考・判断・表現	47.6	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

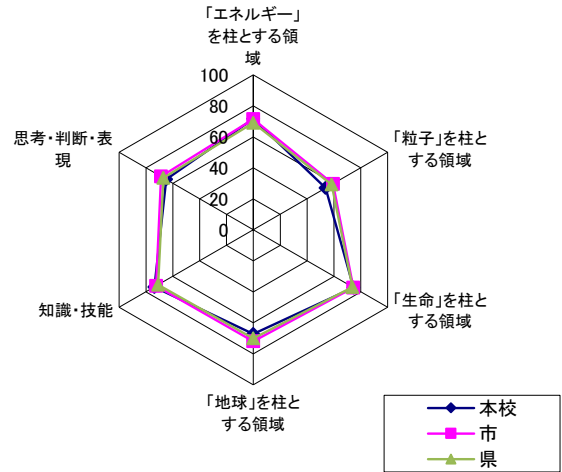
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	本校の平均正答率は、市の平均より3.0ポイント低い。 ○「分数の正しい大きさ」「2けた×1けた＝3けたの計算」においては、市の平均よりも約12ポイント高い。 ●「小数を数直線上に表す」「式の意味を言葉で説明したものを選ぶ」「2けた×1けたを計算する式を立てる」においては、市の平均よりも10ポイント以上低く、課題が見られる。	・今後も計算ドリルやAIドリルを有効に活用し、基本的な計算問題に繰り返し取り組ませることで、定着を図っていく。 ・かけ算のしくみの基礎をしっかりと指導したり、工夫して計算する方法の練習を継続したりすることで、理解を深められるようにする。 ・説明する問題と立式する問題の正答率が低かったため、文章による数量関係の状況を理解する力を高めるために、話し合い活動や操作活動を取り入れる工夫をしていく。
図形	本校の平均正答率は、市の平均より3.2ポイント低い。 ○「球を平面で切った時の正しい切り口の形を選ぶ」においては、市の平均よりも11.6ポイント高い。 ●「箱の横の長さから球の半径を求める」においては、市の平均よりも19.0ポイント低く、課題が見られる。	・円や球の基本的な事項について確認し、復習をしたり繰り返し問題に取り組んだりして、定着を図るようにする。 ・箱の横の長さから球の半径を求める問題の正答率が低かった。知識を実生活で活用できるものとして習得できるよう、身の回りの円や球について考えたり、実物を用いたりするなど、実感を伴って理解できるように指導を工夫していく。
測定	本校の平均正答率は、市の平均より2.8ポイント低い。 ○「時間が経過する前の時刻を求める」においては、市の平均よりも8.4ポイント高い。 ●「重さを、基準量のいくつかで考え、説明する」では12.3ポイント、「はかりの目盛りを読み取り、重さを答える」においては、7.0ポイント市の平均よりも低く、課題が見られる。	・はかりの目盛りを読み取る問題の正答率が低かった。はかりのgとkgの読み方を確認し、実際にはかりを使って物の重さを測る活動を取り入れながら定着を図るようにする。 ・重さの単位を確認し、操作活動や視覚的支援を取り入れながら文章から状況を理解する力を高めていく。
データの活用	本校の平均正答率は、市の平均より1.4ポイント高い。 ○「二次元の表の合計欄にあてはまる数を答える」では、市の平均よりも7.8ポイント高い。 ●「目的に合わせて選んだ棒グラフが適切である理由を選ぶ」では、市の平均よりも2.8ポイント低い。	・表やグラフの中から必要な条件を活用して解答することができるよう、それぞれグラフの特徴をつかみ、目的に応じて使い分けられるよう指導していく。 ・授業において、資料から読み取れることについて話し合う時間を確保し、目盛りの大きさ、示された項目や値について、全体で確認する場を繰り返しもつことで定着を図る。

宇都宮市立西小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	71.6	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	53.9	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	74.6	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	67.2	72.0	70.1
観点	知識・技能	73.7	72.5	70.9
	思考・判断・表現	65.0	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	本校の平均正答率は、市の平均より0.2ポイント高い。 ○電気の通り道の名称を答える問題では、正答率が市の平均より16.2ポイント高い。 ○豆電球に明かりがつく回路の組み合わせを選んだ問題では、市の平均より11.1ポイント高い。 ●音を伝える物の震えを止めた時、音が伝わらなくなることを答える問いは、市の平均より14.2ポイント下回った。 ●声が聞こえた点から糸電話をつまんだ場所を推測し、聞こえた人物を選ぶ問いでは、市の平均より16ポイント下回った。	・実験の際には、様々な方法で検証し、結果を考察する際は、言葉を的確に選んで表すことができるよう、さらに経験を積み重ねていくようにする。 ・発展的な内容にも対応できるように、十分に実験を重ね、現象の関係を捉えることができるようにする。また物づくりの経験を多く取り入れることで、学習したことを生かすことができるようにする。
「粒子」を柱とする領域	本校の平均正答率は、市の平均より5.4ポイント低い。 ○実験結果から同じ体積でも材質の種類によって重さが異なることを答える問題では、市の平均より1.9ポイント高い。 ●粘土の形の違いによる重さの変化について提示された予想に沿う結果を選ぶ問いでは正答率が市の平均より5.1ポイント低かった。 ●実験結果から推測して重さをそろえた異なる材質の物の最も体積が大きい物を答える問いでは正答率が市の平均より14.8ポイント低かった。	・形の違いによる重さの変化についての実験では、何を調べる実験なのか、どのように結果を読み取っていったらよいかを丁寧に支援し、様々な方法で検証することで現象を十分に理解できるようにすると共に、考察の仕方や結果の表し方が的確にできるよう指導する。 ・教科書の実験によって検証するだけでなく、現象について、様々な方法で検証し、科学的な見方を広げていくようにする。
「生命」を柱とする領域	本校の平均正答率は、市の平均より0.1ポイント高い。 ○観察した植物の共通のつくりを答える問いでは、市の平均よりも6.1ポイント高い。 ○モンシロチョウのたまごと幼虫について適切に説明した文を選ぶ問いでは、市の平均より8.8ポイント高い。 ●モンシロチョウとトンボの育ち方の差異を答える問題では、市の平均よりも11.5ポイント低い。 ●ホウセンカを育つ順番に並び替える問題では、市の平均より8.6ポイント低い。	・観察のポイントを明確にし、観察方法等を十分に話し合って理解させることを大切にしていきたい。さらに生物の変化の様子や、育ち方の差異点や共通点など結果から読み取ることにについて、児童が出し合った意見の中から精査していく活動を十分に取り入れ、科学的な見方を培っていく。 ・教科書の教材以外にも、様々な植物や昆虫についてつくりや育ちを考える活動を取り入れることで、学習を生かして考える思考力を身につけさせる。
「地球」を柱とする領域	本校の平均正答率は、市の平均より4.8ポイント低い。 ○温度計の使い方が身に付いているかについては、市の平均よりも13.1ポイント高い。 ●方位磁針の正しい使い方を学ぶ問いでは、市の平均よりも15.7ポイント低い。 ●太陽と日陰の位置関係と、日陰ができる方角の組み合わせを選ぶ問いでは、市の平均よりも13.7ポイント低い。	・実験器具については、十分に使い方を理解させた上で、多く経験を重ねてきたので、理解が深まっている。方位磁針についてもさらに経験を積ませるようにしていく。 ・太陽と日陰の位置関係については、観察を十分に行ったが、児童が方位について感覚的に身に付けておらず理解に結びつかないことがあった。方位について体験活動を充実させることで、感覚的に身につけさせていく。また、身に付いたことを生かして事象についてしっかりと検証させていくようにする。 1人1台端末を活用し、映像資料をもとに理解が深まるようにする。

宇都宮市立西小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」と肯定的回答した児童の割合は(100%で)、学習と生活とのつながりを意識した指導による成果が表れている。

今後も引き続き、学習が将来の役に立つよう、つながりを意識するなどし、学習意欲の向上に努めていく。

○「自分には、よいところがあると思う。」と肯定的回答した児童の割合は9割を超えており、日頃から、児童を認め励ます教育を推進するとともに、友だちのよさを伝え合う活動などを実施して自尊感情の育成に努めている成果が表れている。

今後も引き続き、学校と家庭が連携して児童の努力や成長を見守り、よさを伸ばす指導を推進していく。

○「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」や「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している。」と肯定的回答した児童の割合が県の平均を上回っており、日頃からクラス内でペアやグループ、学級での話し合い活動を行ってきた成果が表れている。

また、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」と肯定的回答した児童の割合は(94.2%で)、県の平均を10ポイント以上上回っており、1人1人の意見を大切にしながら協働的な学びを実践している成果である。

○「だれに対しても、思いやりの心をもってせっている。」と肯定的回答をした児童の割合は(97.1%で)、県の平均を上回っており、日頃の生活や「道徳」、いじめ集会などを通して友達や周囲の人を大切にしようとする姿勢の育成に努めている成果が表れている。

今後も引き続き、児童がお互いを大切に作る意識をもてるよう、異学年交流や地域活動にも広げていく。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くのは難しい。」と回答した児童の割合は(76.4%で)、県の平均を10ポイント以上上回っていることから、多くの児童が苦手意識を持っている。各教科において自分の意見を持ち、例示を参照するなどしながら苦手意識を減らしていく。